



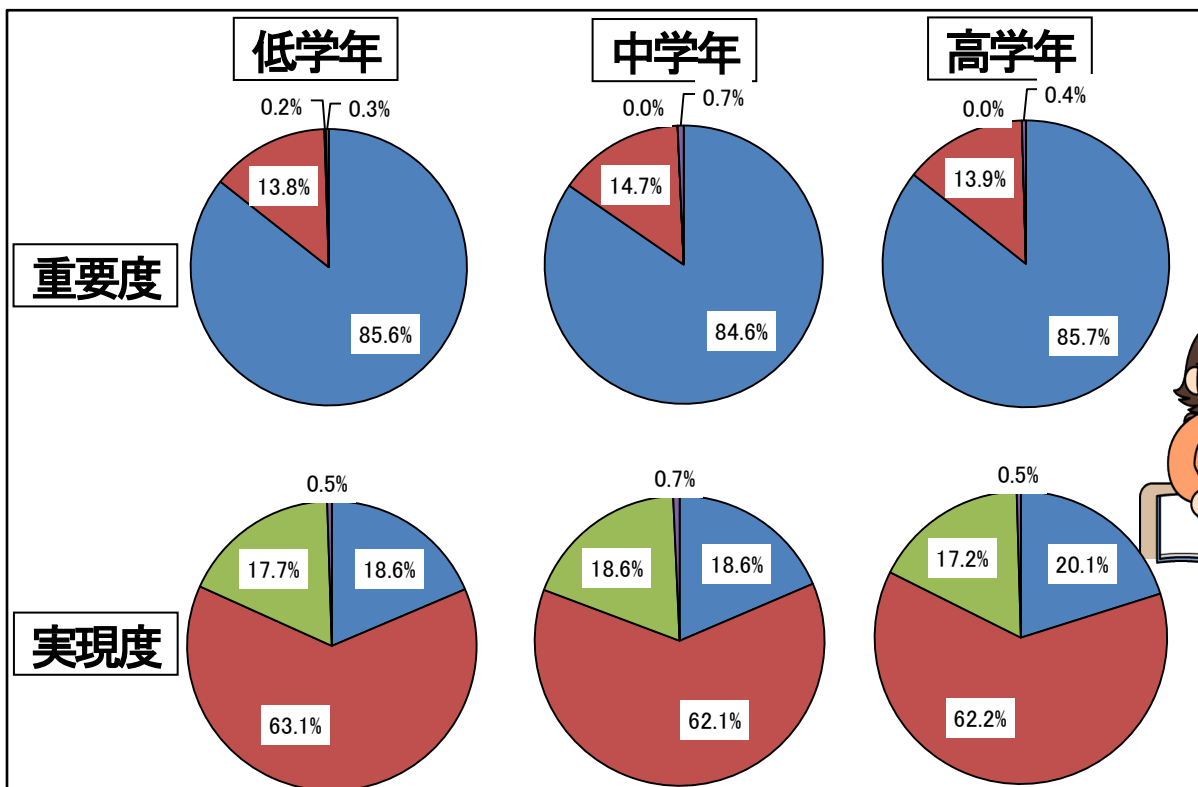
学校だより アンケート特集号



平成 29 年 9 月
京都市立桂東小学校
校長 和田 英明

前期の保護者アンケート結果です。結果の集計とそこからわかる傾向と今後の課題について、考察してみましたのでお知らせいたします。
抜粋した項目について、低学年・中学年・高学年と学年が進むにつれての割合はどう変わっていくかを調べてみました。

『自分の考えをしっかりと発表したり、友だちの意見をしっかりと聞いたりして、友だちと一緒に学習しています。』

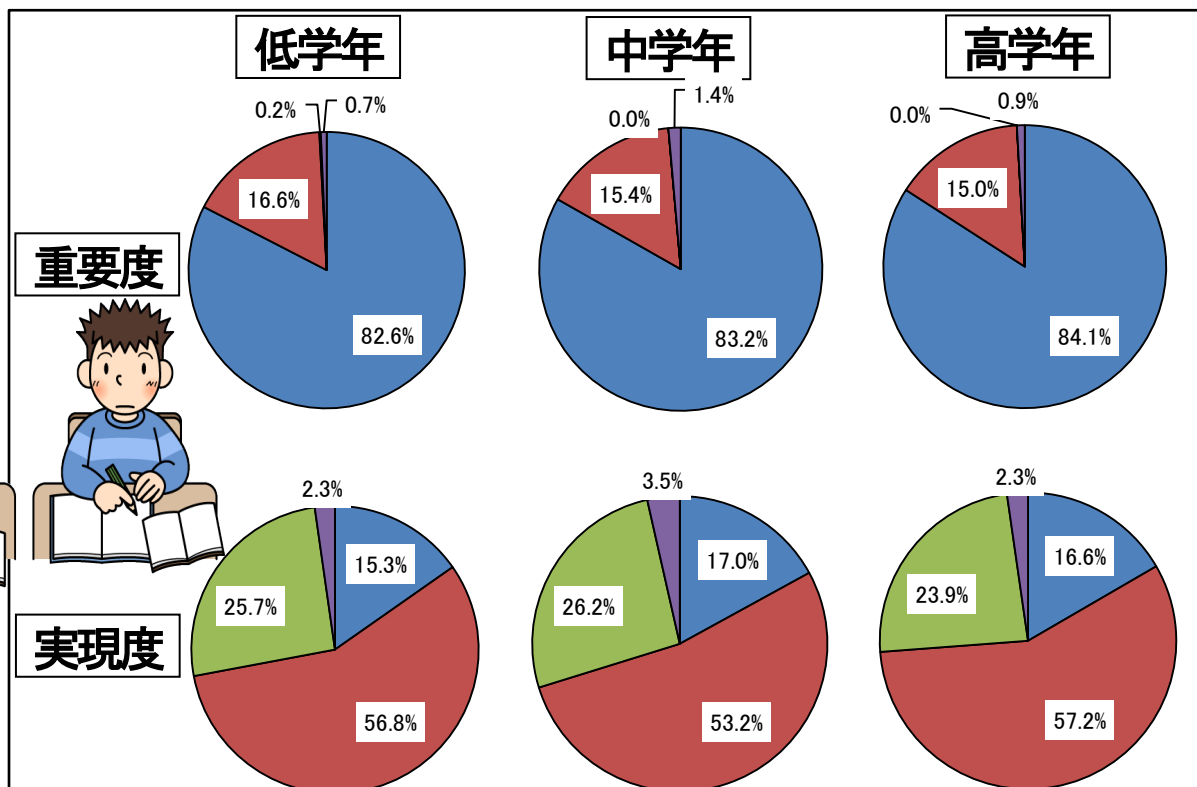


「重要である」が低学年85.6%、中学年84.6%、高学年85.7%とほぼ同じぐらいの高い比率です。「友だちと関わって学習すること」を保護者の皆様が大事に考えておられることがわかります。「子ども同士の協働を取り入れた学習」は、京都市教育委員会として、平成29年度学校教育において重視する視点の一つとなっており、平成29年度の本校の学校教育目標の中にも盛り込まれております。

子どもたちのアンケート結果（実現度）では「よく出来ている」が低学年51.9%、中学年49.8%、高学年43.2%と学年が上がるにつれて比率が減少していきませんが、「よく出来ている」と「大体出来ている」とを合すると、低学年・中学年・高学年ともに85%ぐらいを推移しており、高学年も結構高い数字となっております。一方、保護者の皆様から見た児童の実現度をみると、「よく出来ている」が低学年18.6%、中学年18.6%、高学年20.1%となっており、児童が答えた実現度よりかなり低い比率で、保護者との温度差がかなり大きいです。

保護者の皆様は、実際に子どもたちの学習の様子を観る機会が授業参観の時ぐらいしか少ないことと、保護者の皆様と子どもたちとの「協働」のとらまえ方の違いにより、このような結果になったのだと考えられます。「学び合いのある授業」「系統的な学習の継続」「自主的な学習の継続」の三つをリンクさせて取り組み、「子どもの主体的な学び」をつくることで、自ら進んで学習する子どもの育成を目指しております。ご家庭での子どもの自主的な学習習慣の形成にご理解・ご協力をお願いいたします。

『お子たちは、いつもよい態度で学習している。（話す、聞く、書く、座る姿勢・など）』

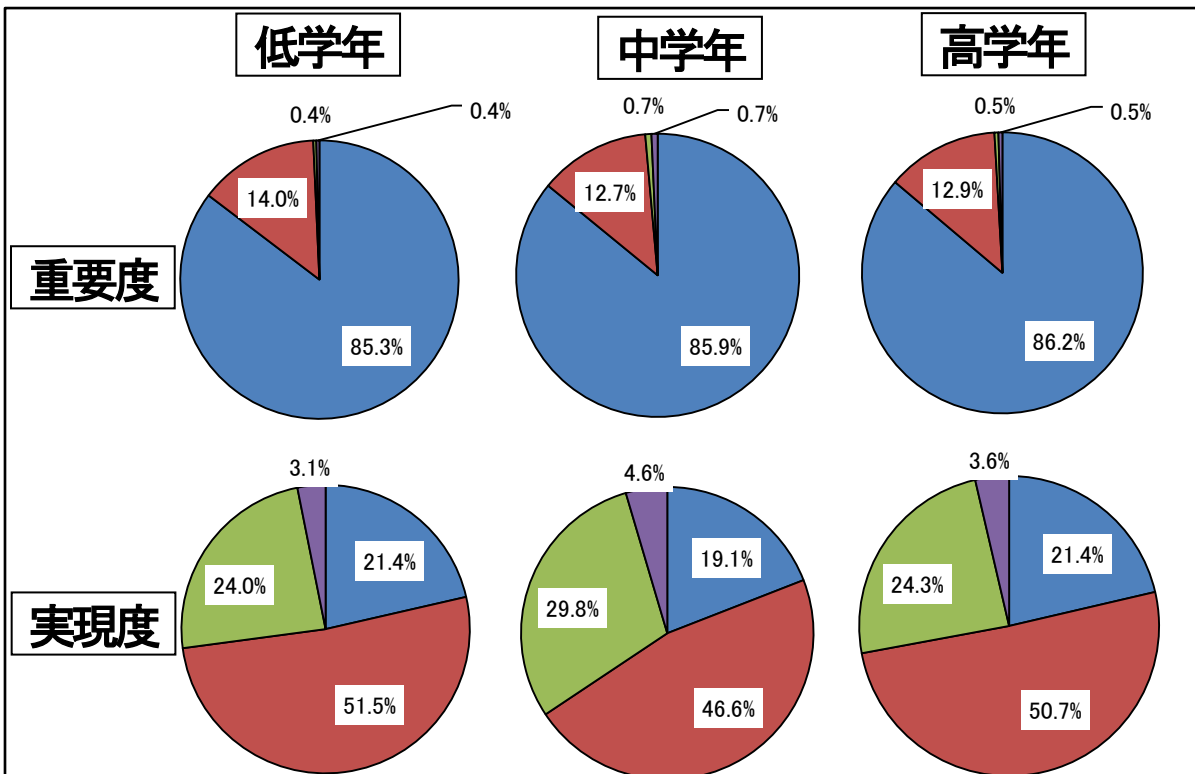


『重要度』では「重要である」がどの学年も85%超えを推移していますが、『実現度』では「よく出来ている」が16%前後を示し、しっかり出来ているとは言い難い結果です。児童アンケートの『実現度』では「よく出来ている」が低学年35.6%、中学年30.4%、高学年23.7%となっており、保護者アンケートの『実現度』とはかなりの温度差があります。保護者の皆様から見ると、家でリラックスしているわが子の様子の占める割合が大きいのではないかと思います。

学校で学習中の子どもたちの様子を観ていても、姿勢の崩れている子どもが少なくないです。悪い姿勢で座っている時、自分では楽に感じるかもしれませんが、実際には、身体の筋肉の一部に負荷がかかっている状態です。そのため、ずっと悪い姿勢でいるとストレスが偏ってリラックスできていません。だから、集中力も長続きはしないし、学力向上にもつながりません。この問題は、いろいろな要因が絡み合っている状況だと思いますが、心身の成長、学力向上には良い影響を及ぼさないことは確かです。例えば、腹筋や背筋が弱いことで姿勢が悪くなることがあります。また、心理的要因で正しい姿勢が保てないこともあります。姿勢を良くしようとしても、姿勢について正しく理解していなければ、無駄な力が入り、背中が痛くなったりして、かえって集中力が落ちてしまうこともあります。

ただ、「背筋を伸ばしなさい。」「姿勢を正しくしなさい。」では、なかなか解決しないと思います。特に、心理的要因の場合、お子たちに気になる様子があれば、まず、お子たちの話をじっくり聴いてあげてください。お子たちの気持ちを楽にしてあげることが大切だと思います。

『お子たちは、家庭学習の習慣が身に付いている。』



『重要度』では「重要である」がどの学年も85%超えを推移していますが、『実現度』では「よく出来ている」が20%前後を示し、しっかり出来ているとは言えない結果です。児童アンケートの『実現度』では「よく出来ている」が低学年68.6%、中学年62.2%、高学年55.7%となっており、保護者アンケートの『実現度』とはかなりの温度差があります。この温度差については、各ご家庭でお子たちとそれぞれの思いのズレがどこにあるのかをしっかりと話し合っただき、家庭での主体的な学習のあり方を親子で共通理解できれば家庭におけるお子たちの主体的な学習につながっていくと思います。

学校でも、子どもの“主体的な学び”をつくることが大事であると考えています。そこで、学校での“学び合いのある授業”“系統的な学習の継続”，そして家庭での“自主的な学習の継続”の三つがうまくリンクして機能することによって、自ら進んで学習する子どもの育成につながっていくと考えています。学校では、目的を明確にした子ども同士の協働を取り入れながら課題の発見・解決に向けた主体的・対話的な学びを重視し、「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」が実感できるような授業を目指して日々取り組んでおります。

家庭でも自ら学習する習慣を身に付けるようにするには、まず、各家庭の事情に応じて学習環境を整える必要があります。そして、学校での学習と連動した学習内容を考えていく必要があります。低学年では難しいと思いますが、高学年なら、学習ノートの活用によって、学校と家庭との学習を連動させていくのも一つの方法だと思います。ノートの書き方や課題の選び方、答え合せの方法、さらには学習計画の立て方など、担任とも相談いただき、お子たちの学びの意欲につながっていくれば幸いです。

＜保護者アンケートの自由記述欄より＞

自由記述欄につきましては、励ましのお言葉や改善の要求など、様々なご意見をいただきました。今後、ご意見をもとにして、改善すべき所は教職員全体で取り組んでいきたいと思ひます。下記には、その一部を抜粋し、掲載しておきます。

◇家庭でも、教育の場でも、生きる力ややる気を育む言葉、声かけが重要だと思います。子どもの力をさえぎり、芽を摘む言葉を使う保護者や教育者のために学習の場を設ける必要性を感じます。

◇先日欠席した時、お友達から…という何名かのクラスメートからのお手紙を頂きました。ちょっとしたことなのかもしれませんが、そのちょっとしたことの時間をとることが、毎日の中で大変だということが分かるだけに、「心配してもらっている」「待っていてくれる…」(クラス内で)ということを感じ、親子で先生のご配慮にとっても嬉しく感じ、学校生活に対して安心しました。有難うございました。

◇勉強よりも「人」としての部分を重視した学習で学んでほしいと思います。最近は、使い捨て文化が広がっていて「もったいない」の意識の低下が悲しいです。

◇学校でみんなで“やる気”が出るように「学校で楽しんでいる大賞!」「豊かな心、学校のルールをよく守っているで賞!」など、みんなで投票して“がんばっている人”をみんなでほめて、やる気が出るようにみんなでがんばる機会を作ってみては…?

◇集団登校で朝、集合する時に、子どもたちが無言で集まって、無言で出発していく様子に驚きました。班によって色々なかもしれませんが、自分の子には、「お友達に必ずおはようのあいさつを自分からするように」と伝えました。各家庭で、子にあいさつの大切さを教えられたらいいのかなと思いました。

◇朝、登校時、人数が多くなったので、信号待ちを3回くらいする班が出てきました。(桂川街道)町別集会の時に学期ごとに班の集合時刻ずをらして、分散させるのは、どうでしょうか…?

◇いつもありがとうございます。「誰にでもあいさつできる。」という項目。誰にでも…というのは恐い時代です。恐いというのは、とてもさみしい時代になったと思います。せめて顔見知りの人には、しっかりあいさつできるようにしていきたいです。

◇プール時の着替えですが、男子・女子同じ教室では、はずかしいと言っています。別々に、着替えがで出来るようにしてもらえると助かります。

自由記述欄の中には、その他にも厳しいご意見があります。わたくしたちは、全教職員が一致協力して「一人一人の子どもを徹底的に大切にすること」という姿勢を堅持し、子どもたち一人一人の人権を徹底的に大切にし、一斉指導の中でも可能な限り個に応じた指導、取り組みを行っております。今後とも、ご理解・ご協力頂ますよう、よろしくお願い致します。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。様々な課題や今後も伸ばしていきたい桂東の魅力などを知るうえで、大きな指針となりました。

また、アンケートの裏面の自由記入欄に記入いただいた事項に関しては、教職員及び学校運営協議会理事の方とも協議して、今後の学校運営に反映させていきたいと思っております。